



メズンルーに於ける傷手の當

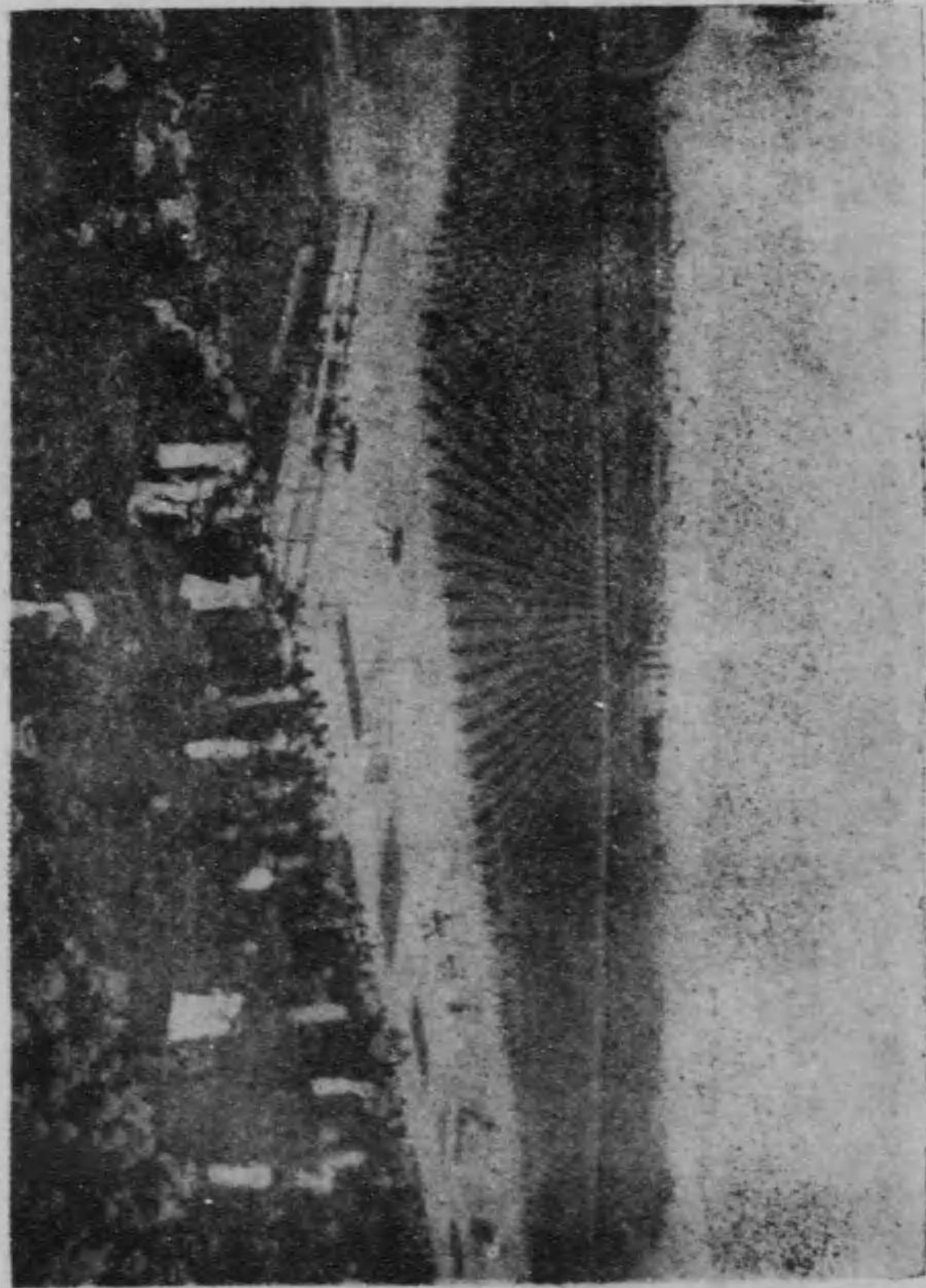
たか、顔にタラノ、血が流れる。その様子でこれは手當ての必要があると見ると審判者が中止を命ずる。すると介添が横合から、二人の間に斜に剣を突き出して試合を止めるのである。この時介添が怪我をすることもある。實際切るか切られぬかの際には、口で中止と言つた位では、遣る者の耳には入らぬことがあるものに見える。それで介添が剣を横合から入れるのである。こゝらがお面、お小手をつけて、竹刀で撃剣をするのとは氣の入れ方が違ふので、眞剣勝負はまた別な所が



ドイツ大學生のメズンルー

してゐる。パウカントの左側に介添 *Se-kundant* が頭や首を保護して、やはり剣を以て控へて居り、正面には審判者 *Unpart-eischer* (局外者の意) が居る。さてパウカントが身構へして、剣を頭上に交叉すると一方の介添が、「メズンルーには刃を交はす」 *Auf der Mensur, binden die Klängen.* と言ふと、他方の介添が「刃は交はされた」 *ge-bunden sind* と應ずる。すると審判者が「始め」 *Los* といふを切つかけに、對手が剣を振り廻し、殆んど無宙になつて、カチャカチャやる。その中に一方が何時切られ

ある。剣闘中對手同士は無言である。切られても何とも言はない。これはその掟になつて居るのかも知らないが、實際眞剣勝負には掛聲などは出るものでないらしい。盛んに掛聲をするのは、まだ餘裕のある證據であらう。試合ひを中止すると、立合ひの醫者 Pankart(卒業期の醫學生)が傷口を検し、應急手當てをして、出血を止め、大した傷でなければ、また試合をやらす。間で二度位手當をする事がある。傷によつては、随分出血が夥しく、白いシャツを傳つて、床にポト／＼落ちることもある。それでも大概泰然自若として居る。ドイツの學生にはかやうにして膽力の練られた者もあるのである。メンズールが終ると、負傷した者は、繃帯をして貰ひ、絆創膏を張つて貰つたりして、俳諧の宗匠のかむるやうな廂無しの柔かい帽子にかむり變へて、皆と共に酒屋を退散する。この繃帯や膏藥張を頬や鼻の上なまににして、常と違つた帽子を着て、町を歩



操體の千女會操體大人クモナるけ於に市クラーナ

るくのが一種の誇りである。

メンズールは法律では禁止されて居たに拘はらず、學生は依然これを行つたので、黙許の氣味であつた。歐洲大戰後は、ドイツの軍國主義が廢つても、以前ほゞではないが、今も尙これを行つて居る。(尙ハートもその著「ドイツの大學」の中に、メンズール實見記を書いて居る。J. M. Hart, German Universities, Part I. chap. IV. Auf der Mensur.)

ドイツでも、運動競技を盛んにすべき事を唱へて居る者もあるが。從來の慣習もあり、費用も入るし、又教育者にも同意しない者もあつたりして、その實現を見ることはなほ困難であらう。

因に記すが、チエコスロバキアの西方の都會ブラーグでは、チエク人が大體操會を催すことがある。これはチエク人の團結を固くし、ドイツ人に對する示威の意味もあるのであるが、なか／＼大規模のもので、數

萬の男女が體操をするのである。又大行進運動も行ふ。平常は體育館に男女老幼が行つて、體操、行進等をやつて居る。かやうにして民衆の訓練が出来て居るから、大勢人出の時も町が込み合はないで、うまく整理がつくといふ事である。

第六章 米國國民性と運動競技

第一節 米人氣質

こゝに米國といふのは、普通の意味で北アメリカの合衆國を指すのである。一體米國は、歐洲から自由を求める者が移住し、植民したのが、建國の始まりであるから、自由の精神が非常に強い。又舊世界の如く、社會的階級制度といふものが初めからなく、各人が平等で、デモクラチツクである。固より貧富、教育の高下に由る多少の區別はあるが、階級といふものはない。従つて人間が伸び伸びとして、蟠りがなく、無遠慮で、公開的で、一本調子で、直情徑行である。國が若くて、人民が元氣で、小面倒な事がなく、舊い歴史や慣習がないから、新しい事が容易に實行せられる。土地は廣し、山河は雄大であつて、自ら人の氣象を快潤

ならしめる。加ふるに外國から運命を新世界に開拓すべく渡來移住した者も多いから、冒險的氣分に富んで居る。それで何でもすばらしい事、人の度膽を抜くやうな事が好きで、世界一の事をやらうと心掛けて居る。鐵道、橋梁、摩天樓、デパートメントストア、自動車等、始めて渡米するものを、アットと言はせるものが多い。また際涯なき千里の平原、コロラドのグランドキャニオン、ナイアガラの瀑布等自然を見ても世界一のものが少くない。かやうに自然と人とが相俟つて、所謂ヤンキー魂を生じたのである。

米人はまた極めて勝ち氣の、負け嫌ひな人間である。門閥や階級による優越が認められず、各人平等で、實力あるものがどこまでも伸び得るから、競争心が強い。それが他國に對しても同様であつて、他國でやつて居る事で、こちらで出来ない事はないといふので、他國に優れたもの

があれば、自國でもやつて見る。日本の菊が好いといへば、すぐ菊を植えて、立派な菊を作るし、櫻も移植して、随分春は花盛りの所がある。パーバンクの植物變生は殆んど人間業ではない。世界各國の人が移住するから、各國の文化が輸入せられ、各國がその本國の一部を、米國に持つて來た觀がある。ニューヨークの如きはドイツ系の人が百萬も居る。即ちドイツ人の第一の都會はドイツのベルリンで、第二か三の都會はニューヨークである。イタリア系の人が五十萬から居る。これもイタリア人の第一の都會はネーブルスで、第二か三の都會はニューヨークである。シカゴにはスウェーデン人が三十萬居る。スウェーデンの本國でも、人口三十萬なら大きな都會である。かういふ工合で、米國は世界人種展覽會の常設地ともいふべく、米國だけで一つの世界である。それで米國を他の一國と對立せしめるのは當を得ない事があるので、鐵道の如きも、

歐洲全體のものよりも延長が大である。一九二〇年の世界オリンピック、ゲームスに於ても、レコードを破つた十四のゲームの中で、十一は米人が破つたのである。負け嫌ひの米人が勝敗を争ふゲームスに負けられないのは當然であらう。しかし精神的の方面は、哲學文學等まだ他に及ばない所がある。運動競技は身體と精神の鍛鍊を要する點に於て、物心の兩界に跨るものである。それで國民が運動競技に熱心であつて、又それに上達するといふ事は、その影響が物質的文明と精神的文明の兩方にある譯である。即ち運動競技が健全に榮えるといふ事は、その國の充實せる原動力と將來の隆盛を語るものである。

第二節 米國に於ける運動競技の由來

米國に於て學生間に運動競技の盛になり出したのは、五十年來のこと

である。革命期（一七七五—一八四〇）に於ては、學生のスポーツは、時間の浪費と考へられ、又下等なもので、學生及び紳士に不似合であるとされ、冷淡よりも寧ろ輕蔑された事がある。一八四〇—七〇年は米國學生間に於ける運動競技の形成時代である。

今日米國で盛んに行はれる運動競技は、ボートレース、フットボール、及びベースボールであるが、その最初基礎の出來たのは、ボートレースである。一八四三年にエール大學の學生が競漕用のボートを購求して、クラブを作つたのが始まりで、一八五二年にはエール、ネビーが組織され、後に大學のボート、クラブがこれに代つた。ハーバード大學は、エールより後にボートを始め、一八五二年來兩大學のボートレースがあつたが、標準條件の下に、レースを始めたのは、一八六四年からのことである。それまでにハーバードの方が勝が多かつたから、一八六九年に

ハーバードが選手を英國に送つて、オクスフォードと競漕したが負けた。しかしエール、ハーバード兩大學のボートレースは、世間の興味を惹起し、新聞も盛に書き立てるやうになつて、競争も激しくなつた。

ベースボールの組織は、ボートよりも遅く、一八五八年にプリンストン大學に、最初の正規のナインが出来、翌年アムハースト大學に、一八六五年エールに出来た。ハーバード對エールのベースボールの常例のマッチは、一八六八年からである。その第二回のマッチには四十一對二十四のインニングスで、ハーバードが勝つたといふのに據つても、まだその技の幼稚であつた事が分る。

フットボールはまだ十分形を成さないながらに、革命期以前から、カレッジ、メンの娯樂の一種となつて居た。(カレッジ College は、總合大學、單科大學、高等の學校の總稱として用ひる)。一八五七年プリンストンにそ

のクラブが出来たが、間もなく廢止され、一八六四年に復活されて、一時すべてのゲームス中最も人氣あるものとなつた。エールでは一八七〇年ラグビーの一出身者に由つて起され、七十二年その組合が出来た。この時代にはゲームの形式が區々であつたが、一八六七年にラグビー式の規則が、カレッジ間に正式に採用されることとなつた。

運動競技は、一八七〇年から、カレッジ、ライフに於て、その地位を認められる事となり、ボートレースはハーバード對エールが行つたが、その競争は激甚となり、これを緩和するの論さへ、新聞なきに出た。ベースボールも東部の一流の大學で行はれるやうになつた。フット、ボールは地方の大學の學生には可なり興味を以て迎へられたが、まだベースボールほどではなかつた。

第三節 運動競技の現況

運動競技が米國の學生々活に於て最も顯著なる地位を占むに至つたのは、前述の如く五十年來である。公衆の大部分は、高等の學校を、唯殆んどその運動競技のレコードに由つてのみ知つて居るので、學生間の時事話題の大部分は、この事に關係して居る。スポーツの優秀なキャプテンは、そのクラスの最も人望あり勢力ある人で若い學生の理想である。

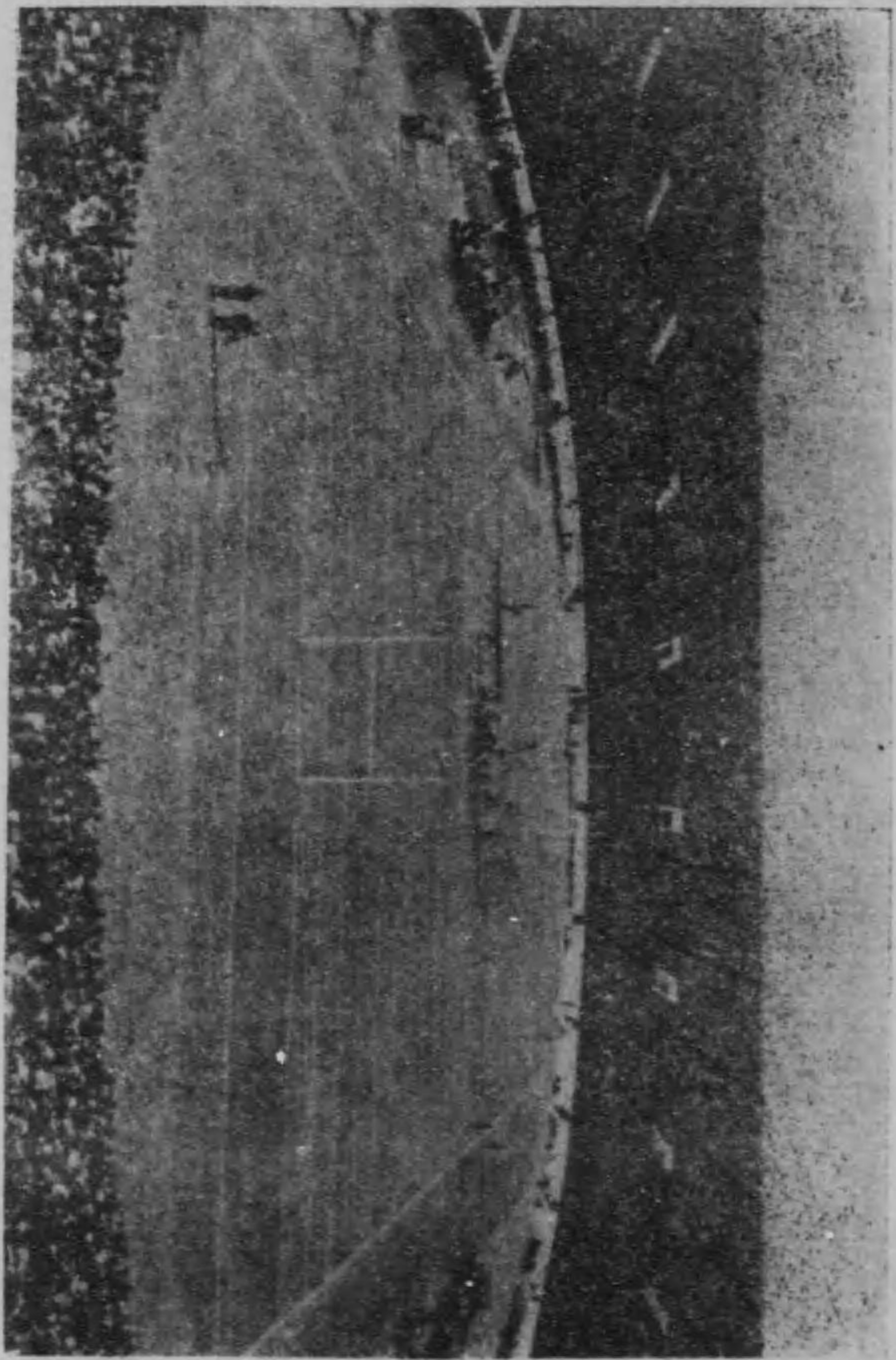
今一八七〇年の學生間の運動競技の有様を観ると、この年ハーバードとエールがボートレースを行つて、前者の勝に歸し、その後他の東のカレッジも加つて競漕をしたが、故障が起つて中止される事になつた。この兩大學は一八七六年から、又之を始めて今日に至つて居る。これが秋に於けるフットボールのマッチに次ぐ、大切な運動界の出來事となつて居

る。ボートレースは東部の六、七のカレッジ間でもやつて居るが、餘り廣くは行はれて居ない。

ベースボールは米國の國技であつて、最も廣く行はれ、このカレッジでもやらぬ所はない。獨り學生のみならず、米人一般に最も人氣のあるもので、それにはカレッジの學生間に持て囃やされたのが、與つて力がある。野球に多くの職業團があつて、我が國の角力のやうに興行し、その争覇戦の如きは、人民に大なる緊張を以て迎へられるものである。野球はスポーツとしては最も早く我國に輸入せられ、又最も廣まつたものであつて、今日は米國から學生又は職業團のチームが屢、我が國に渡來するし、我が私立大學の學生も渡米して、米國のカレッジと競技する事のあるのはよく人の知る所である。その本職の優秀なる者は、高給を以て、諸方のチームから招聘せられ、全國の人氣を一身に負ふので、ホームラン王ベ

ーブ、ルーズの如き、米國は勿論我が國の兒童走卒すらも知つて居る程である。野球は春と夏に行はれ、都會と地方を問はず、殆んどすべての青年がやるので、ミユンスターベルグに據れば、暖い各土曜の午後には三萬以上の場所でマツチがあり、五百萬位の人が見て居るのである。即ち場の周圍は、勞働者、僧侶、店屋の小僧、大學教授、汚穢屋、百萬長者、誰でも、社會的相違の考へられるビジネス界から解放されて、平等一如の興味を以て、マツチを見て居るのである。

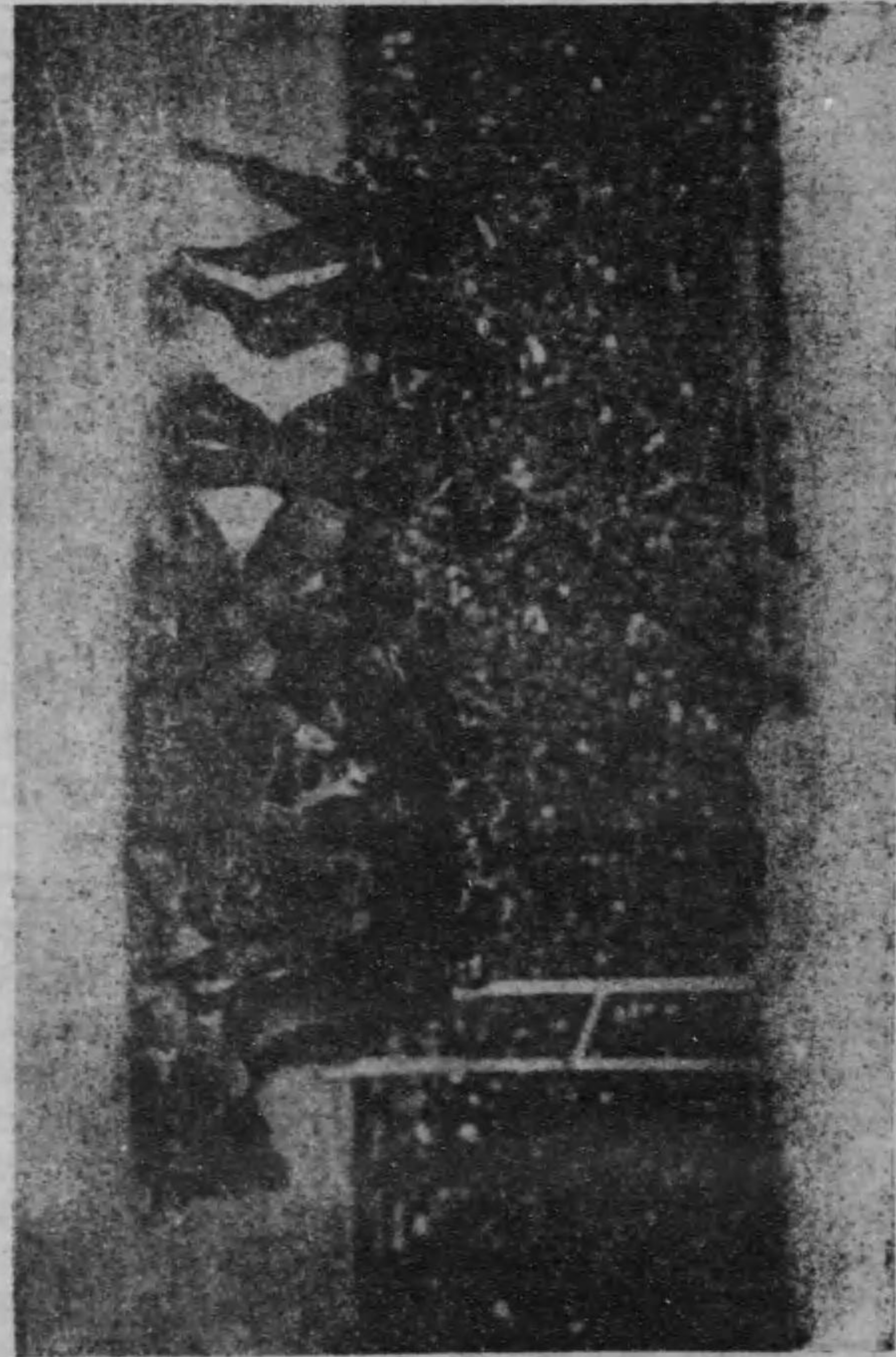
フットボールは特にカレジの競技 the college sport par excellence である。それが形成されたゲームとして、カレジに人氣を得るに至つたのは、一八八〇年からで、始めは東部だけであつたが、一八九〇年以來全米のカレジがこれを採用し、中等學校にも擴まり、小學校でも行ふ地方が少くない。地方學校の競技はその地方に於ける重要なる出來事となつて居る



（人萬七衆觀）ルースボツツるけ於に學大ルーロ

が、特に一流の大學間の競技は、國民的重要事件と見なされ、その詳細は全國隅々まで電報せられる。これを行ふ重もな大學は、東部では、ハーバード、エール、プリンストン、ペンシルヴァニア、コーネルの五大學であり、西寄りの中部では、ミシガン、ウイスコンシン、ミネソタ、ノースウエスターン、シカゴが二流のグループを作つて居る。その他西部、南部の大學間にもマツチを行ふ。

米國でフットボールが一般に人氣のあるのは、その身體的争闘の要素が多分にあるに由る。米國のフットボールは實に猛烈を極めたものである。ただ足で蹴るばかりではなく、ボールを手にして、ゴールラインの後方に運んで行つて地に着ける、所謂タッチダウン touchdown の場合の如き、兩軍が入り亂れ、二十余人が一つの肉團となつて揉み合ふ様は、實に猛烈なものである。それで怪我人も出る。出るが割りに少いといつて



フットボールの試合に於ける選手

すまして居る。これでなければ、米人は遣つたやうな氣がせず、見たやうな氣がしないのであらう。即ちローマの劍士の格闘、力士の拳闘と同じく、人間の最も強烈なる本能の一つ——争闘の本能——に訴へる所のものであつて、冒險的な、強烈な刺戟を欲する米國人には、最もふさはしき競技である。それでプレーヤーは、頭、肩、膝等に保護する物を着けて、身體の何の部分から先きに倒れてもよいやうにして居る。平常の練習にも倒れる練習をして、肩からでも頭からでも先に倒れて見る。規則を知らぬ者が始めてゲームを見たらば、唯揉み合ひへし合ひして、大喧嘩が始まつたかと思ふ外はない。フットボールは複雑で科學的のところがあるから、大學のマッチを見に来る大群集の多くは、刻々何が起つて居るかが分らないで、唯その壯烈猙獰を喜ぶのである。即ちこの方はベースボールと違つて、民衆はやるよりも寧ろ見るのである。フットボールは

大學が本場であつて、特にハーバードとエールのマッチの如きは、最もセンセーショナルなもので、ナショナル、インボータンスの出来事として、數萬の觀衆を呼ぶのである。オルター、キャンブはフットボールを戦争に比較し、そのコーチチャーも將軍も共に、策略と訓練の問題に頭を悩まし、敵を敗北せしめねばならぬものとして居る。フットボールは、他の競技よりも一層學校に限られたもので、ベースボールの如く、ピジネツスとはなつて居ない。それが一般に好意を以て迎へられる一つの理由である。

トラック及びフィールドの競技も重要なものである。既に一八七二年に組織的に行はれた競技のレコードがあるが、ボート、野球及び蹴球よりも日が新らしく、一般の興味を惹く事は少いが、これを野球以上におく學校も少くない。多數の學生がやれるといふ利益もあり、萬國競技

會にも競技の種目に入るものであるから、この方を好む者もある。

第四節 運動競技の練習

以上四部の競技はカレッジ、スポーツの司つかさどであり、カレッジの地位はこれらの競技に於ける伎倆に依つて決定されるほどである。従つて一流の大學となると、各理想的の運動場や體育館を有し、立派な専門的指導者が多數居て、學理と實際に由つて嚴格なるコーチを行ふ。運動競技は唯勝つのみが目的でなく、これに由つて品性を陶冶し、立派な人格者を作成せんとするのである。故に米國の大學に於ては、運動競技は學校の重要な教育の手段である。これは英國に於ては以前よりさうであつたが、米國でも近來その傾向が著しくなつた。それで體育指導者には、その技に通達するのみならず、又立派な人格者である人を物色して、これに任

ずる。例へばシカゴ大學のスタグ教授の如きは、總長に次での位置を占め、學生に衷心から畏敬せられて居る。又昨年春來朝したインディアナ大學の野球チームを統率せる教授の話によれば、同大學には男女學生別々に體育館があり、體育指導者が十五人居て、専ら學生の體育に従事し、その中には總長を除いては、何の教授よりも高い俸給を受けて居る者があるとの事であつた。以て如何に體育家が優遇せられてゐるかが分る。我が國のやうに、學生の先輩がコーチするやうな片手間のものではない。(古代ギリシヤに於ても體育家は最も名譽ある地位にあつた。)さうして設備が完全で、インディアナの練習も十分出来る體育館もあり、身體發達の理想的標準が示され、學理的に又實驗的に周到なるコーチを爲し、學生の睡眠、食物、嗜好品等にも有理的規制をおいてこれを實行し、又學生も練習に熱心であるから、優秀なるアスリートを出し、萬國オリンピック

ツク、ゲームスにも、レコード破りの選手を多く出すのも偶然ではない。ローマは一日にして成るものではない。日本が殆ど見るべき準備なしに、一九二〇年のオリンピックでも、あれだけに行つたのは結構な位である。今後は十分とはいかないでも、せめて相當な設備もし、有理的な練習を行つて、極東だけでなく、世界のオリンピックに於て、一つでも二つでも月桂冠を得るやうにしたいものである。

以上四部のいはばカレジのオフィシアル、スポーツの外、ローンテニス、が随分行はれ、優秀な伎倆を有する者が少くない。昨年は西部の大學の選手で、我が國に試合に來た者もある。テニスは多數が行ひ、健全なる運動としては、冒險的な刺戟の強い競技よりも、一層適當なものである。その外歩行、射撃、自轉車、ボロ、ゴルフ、クリケット、水泳等のクラブを有するカレジもある。これらは時によつて隆替があり、外部の

評判に由つて動くこともある。

第五節 運動競技に伴ふ利弊

運動競技は最も快適な喜びであり、楽しみであるは勿論、立派な、彈力ある、自在な身體を作り、機敏、精確、變通の力を養ひ、強固なる意志を鍛へ、忍耐、持續、協同、服従の習慣を作り、卑怯を厭ひ、潔く行動する氣風を生ずる等、身體上、精神上又品性上に及ぼす効果の甚大である事は、既に述べたとであるが、又これに伴ふ弊害もないではない。米國はその國が元來敢爲冒險の上に成立したものであるから、その傳統を襲うて、負けず魂が強く、運動競技に於て、ことにその特性が發揮せられ、勝つた方がえゝ組である。其爲にカレジのゲームでも、フットボールにはどうしても勝たねばならぬといふので、時に策略や外交が弄

せられ、又本職のプレイヤーを加へることもある。學生の過勞、神經の異常なる緊張を來すことあるは、いふまでもない。これは新聞が余り偏動的に、どちらが勝つかを問題にして、書き過ぎるのにも由る。選手については、新聞にその肖像が載せられ、傳記が掲げられ、伎倆に對する専門家の批評、父親の感想等が記されて、大懸賞付の拳闘家や、本職の野球選手や、自轉車競走選手と同列に置かれて、社會の注目の的となる事がある。その結果、選手の引張り合ひ、法外の金錢の支出、チームの過度の練習、競争の激烈を來すこととなる。キャプテンは、中等學校から、又は地方の小カレッジから、有望な者を學校に招致する事に苦心し、従つて唯ゲームをする爲にのみ何年も在學する者もあり、中には金錢上其他の優遇を受ける者もある。選手及び競技に關する費用は莫大なものであるが、公衆のゲームに對する興味は、大金を獲る事に於て困難を感

ぜしめない。而してその金が少數の者の爲に贅澤に使用せられ、一般學生の體育の爲に、何等の利益を與へない事がある。加前ハーバード大學總長エリオットの言つたやうに、ボート、野球、及び蹴球の練習とゲームの爲に、學年の餘り大なる部分、一日の餘り多くの時間が取られ、學問の方がお留守になり、教場に出ても學科に氣が向かない。學生の神經力は、激しい身體の運動や、數多きゲームの興奮の爲に耗盡される。このやうになると、一種の身體勞働者となつて、精神的勞作が厭になり、終身正常な状態に恢復しないこともある。特にフットボールの如き激烈な競技は、亂暴や不正を行ひ、對手の身體に危害を加へて、競技の能力を奪ふことすらある。エリオット曰く、最も男性的スポーツに於て、危険は最小限に減ぜられたが、フットボールは、その最近の發展のために、危険を益多くした。死の危険は餘りないが、身體の不具は斷じて増加し

た。筋轉、骨折、扭挫、腦充血、失齒、關節擴大及び強直これである。フットボールに對する異存は、それが危険性を存するからでなく、危険が法外で重大であるからであると。併しこれは米國式のフットボールであつて、普通のフ式、ラ式では、かゝる身體上の危険は少い。何分米國式のは激烈なもので、餘程身體の頑強な者でなくては出來ないし、又米人ほどゲームに強烈な刺戟を求めないから、恐らく我國には行はれまい。英國に於ても、オクスフォードやケンブリッジは、怠惰な生活を欲する者の行き所とされた位で、學問はそち退けて、スポーツばかりやつて居る學生もあるが、米國でも同様で、智育を輕んじ、智的作業は、生活の要部でないと思つて居るやうな學生もある。競技的理想の優越は、「カレッジは要するに、富有なる者の子弟が、退屈凌ぎに、強いて少しく書を讀み、眞面目な努力を爲さず、後年の義務を果す爲の有用なる練習を行

ふことなしに、三、四年、時には五年を暮らす設營である」(タウシグ教授)との考を、下層の人民に強く印象したこともある。

かゝる弊害は一八九〇年までは甚しかつたが、これ以來漸次健全なる状態に復し出した。それには種々の制限が設けられたからである。例へば學生は毎週一定の時間授業を受けねばならぬ。學科の成績思はしからぬ者は、大學の運動チームに加入できぬ。入學した最初の一年も同様である。競技の爲に報酬を受けた者は、代表チームに入れない。四年以上大學チームに在るを許さないこと等である。又良い大きなカレッジには、人格の立流なコーチャーが居て、監督指導がやかましく、學生はよくこれに服従し、紳士的、スポーツマンライクにやることを目標として居る。競技に必要なものは、潔いといふ事である。E. P. Playである。卑怯や、穢いやり方は唾棄すべきものである。米國でも良い大學では、皆このフェー

ア、プレーといふ事に重きを置き、負けてもきれいに負け、勝つてもきれいに勝つ事を勤めて居る。つまりその争ふや君子で、勝敗共に正々堂々たれといふのである。昨年インディアナの野球チームの我國に來遊せる時も、米國大統領は、その意味の言辭を以て、一行を送つた。野球シーズン前に出發して、練習不足の爲、成績は思はしくなかつたが、フェーア、プレーをして歸つた。今日米國大學生の理想は、學問が優秀で、且立派なアスリートである事である。唯學問ができるだけでもいけないし、唯のアスリートでもないけない。この兩方を兼備した者でなくてはならないのである。かゝる人は社會に出てよく用ひられ、重きをなす人である。

タウシグ教授は、對校競技は、身體練習の精神から行ふべきもので、競技の爲に身體を練習するのではないと言つて居る。理想はさうである

が、多くのカレッジに於ては、競技の動機は體育の爲でなく、他校に勝つて學校の名を顯揚するにある。しかし學校としては、學生が一般に運動競技に興味を以て、體育の爲に、舉つてこれを行ふやうにならねばならぬ。英國の學校の如きはそれであつて、學生が一般に運動趣味を解してこれを行ふのであり、英國人全體も身心の鍛練の爲に、楽しみを爲に運動するので、相手に勝つを目的としてゐるのではない。コンテストの勝利は身體練習の結果の一つであつて、勝利を目的として身體を鍛るのではない。勝利は身體練習にはづみを與へるに過ぎないのである。これこそ始めて運動競技が、國民生活の肉となり血となり得るのである。

米國では女子もなか／＼運動競技に興味を有し、激烈な競技はしないでも、それを鑑賞する力をもつてゐるから、男子の競技を、女子が多數見に行き、女子に見てもらはねば、男子もはすみがない程である。米國

に於ける女子の勢力は、政治上、社會上非常に大であつて、それが又運動界にも及び、女性第一ともいふべき力をもつて居るのである。女子も男子のする大概の野外運動や競技を行ふ。即ちバスケットボール、ホッケー、テニス、ゴルフ、游泳、ボート、乗馬、スケート、スキー、登山、テント生活等は皆その行ふところで、又選手権を争ふこともある。大學にも男女別々に立派な體育館を有するものが少くない。それで米國の女子は快活で、蟬りがなく、のび／＼して居り、體格が立派で弾力があり、又敏捷であつて、我國の女子と比較して非常に違ふ。それは體育の賜物であるに違ひないが、一つは家庭や社會の生活にこだはりが無く、杉のやうにスク／＼と伸び得るからである。日本のやうに、家庭でも社會でも、女子が、蝸牛が角を出しては引込めるやうな生活をしては、人間がいちぢけて、とても伸びるものではない。それで一方體育を盛にし、運動

競技も女子相當のものを奨勵すると同時に、家庭や社會にのび／＼と生活することが出来るやうにせねばならぬ。

第七章 我が國民性と運動競技

第一節 我が國民性と國技

日本の山水は峻険でゆつたりしたところがない。山でも傾斜が急で、大雨でも降ると一度に水を流す。河でも急流が多く、大水が出たかと思ふと、ぢきに引いて、河原が出る。四季の變化も多く、雲霧の集散常ならず、天氣も變り易い。つまり、ラフカヂオ、ハーンの言つたやうに、日本の自然の特色の一つは無常性 *impermanency* である。自然に化育せられる國民の性質にも、そんな所があつて、日用品でも永持ちのするよりもしばらく使つて毀れれば棄てて、新しいのに取換へる。家屋、垣、どぶ板、道路、割箸、竹の皮、履物、數へれば幾らでもある。要するに現世的、その場限りで、明日は明日の風が吹くと澄ましたやうなところが

ある。

それで國民は感激性が強く、熱すると非常な事をもやるが、冷めることも早い。戦争でも始めに勝つ必要がある。日本では特に士氣の振ふことを責ぶのは、その爲である。英國人は、戦争に勝つても、餘り興奮せず、勝つたやうな氣色をしない。歐洲大戰で出兵しても、いよく戦場に臨むまでは、後方では不相變お國のフットボールなどをやつて、戦争があるかとも思はれないが、日本人は出兵となるとから興奮して、戦争の前から、内地から、決死の色を浮べて緊張するのは、所謂士氣が振ふので、好い事もあるが、エネルギーの無益の消耗となり、肝腎の時に早く疲労することもある。英國では運動狂の居る事は日本以上であるが、彌次が居ない。遣る者も競技中決して聲を出さない。それが米人となると、ベースボールをする時でも、互に掛け聲をする。又側に注意する者

が居て、雀のやうに囁つて居る。見物人もまた騒々しい。英人の競技にはそれが無い。肺臓がないかと思はれるまで、如何なる變化、クリシスに際しても、黙つて、熱心に奮闘して居る。見物人も同様で、應援の聲一つ出す者はなく、勿論太鼓やブリキ罐を鳴らす者もなく、敷布の旗を振る者もない。皆眞面目に情けなさうな顔をして、黙つて見て居る。それで外國人にはあれで面白いのかと疑はれる。英人がゲームに應援せず、聲を出さぬのは、一般に英人は眞面目であるから、遊ぶにもやはり眞面目なのであらう。さうして熱血質でなく、膽汁質であつて、物に動じないからであらう。しかしさすが聲は出さぬが、手に汗を握るやうな時には、溜め息をつくから、時には數萬の溜息が、風が樹を掠めるやうな音を立てる事もある。それで數萬人居ても咳一つも聞えぬ。勿論見物人にも最良はある、應援もする。しかしそれはそのチームの記號であると

ころの色の造花や布を、上衣などに附ける位の事である。

日本人はベースボールを始め、主に運動競技を米國から輸入したから、騒ぎ方も米國式であり、選手の注意を英語ですらもやつて居る。もし範を英國に採つたならば、ゲームに於ける態度、應援の仕方、今日とは違つたかも知れない。しかし日本人はお祭騒ぎの好きな國民であるから、競技でも御輿を揉む格で騒ぐのが、國民性に合ふのかも知れない。自分としては、英國流といはないでも、選手も見物人も、一層眞面目で（熱心は十分あるが）、底力のある居り合ひが欲しいと思ふのである。これは學校の運動會や、記念祭についても、同じ希望をもつて居るので、今までのやり方はあまり輕過ぎ、騒々し過ぎ、彌次過ぎる。それが名物のマツチや、年中行事となるほど甚しいのである。

さて我が國固有のスポーツといへば、何といつても相撲（角力）である。

既に凡二千年前垂仁天皇の御代に、野見宿禰が當麻蹶速を相撲で駆殺したといふ、古代ギリシヤのオリンピック、ゲームスにも比すべき古いレコードがあるのを見れば、相撲は餘程早くから行はれたものであらう。その後聖武天皇の時、相撲節會まむしを置かれ、屢存續はあつたが、八百餘年も續き、足利時代からは、神社佛閣等建築の費用を集める爲に、勸進相撲といふものが始まつた。徳川時代には相撲が殊に盛んに行はれ、諸侯にはお抱相撲を養つたものもある。爾來相撲は今日に至るまでも盛んで、名さへ國技館といふ相撲専門のコロッセオさへ出來て居る。相撲にはかやうに古來プロフェッショナルが居るのみならず、國民一般に相撲が好きで、子供の時から、疊の上から相撲をとつて居る。祭禮、祝典の折などには、村でも青年や大人が相撲をとるし、學校では幼稚園の幼兒から大學の學生までとる。こんな由來が古くて、津々浦々まで行はれるス

ボートは、恐らく世界の何處にもあるまい。眞に國民生活の一要部を成すものといつて可からう。なほ我が國の相撲は勝負が早く、時には二三秒で済むこともあるが、西洋の相撲は兩肩を床の上に着けられたら負けになるので、始から四ツ這ひのやうになるのもあり、抑へ込みに行くのもあつて、勝負が長く、一時間位かゝることもある。こゝにも勝を咄嗟に制するのと、耐久的なとの國民性の相違があるやうである。

相撲に次いで古來行はれたものは、劍道と柔道である。これは封建時代にあつて、主もに武士の間に行はれたもので、やはりプロフェツショナルであり、ゲームの爲にゲームをするといふのとはやゝ趣を異にする。なほ、士人以外にも、多少自衛の爲にこれをやつた者もある。尤も徳川時代三百年間は太平續きで、

汗水をたらして習ふ劍術の役にも立たぬ御世ぞめでたき

であつたから、多少スポーツ的のところもあつた。

封建制度が廢れて、明治の御代となつては、廢刀令が下り、常備軍が出来たために、劍道柔道も以前の榮えはなくなつたが、それでも日本の各處に道場があつて可なり行はれて居る。加之近來男子の中等學校に必須科として課するものも多くなつたから、多少盛り返した傾がある。しかしそれは強いられたる課業であつて、果してスポーツの如く、自發的興味を以て、皆が行ふかは疑問である。但劍道柔道は一層精神的のものであるから、相撲や西洋のスポーツとは、その趣意を異にするところもある。

第二節 今日行はるゝ運動競技

劍道柔道にしても、相撲にしても、二人の對抗勝負であるが、西洋の

競技は多人數合同して、協同的動作を要する。二人勝負に於ては、勝敗の運命は一に自己一人の覺悟伎倆に由るので、孤立無援だけそれだけ眞劍味を増す。古來種々の流派が出来、祕傳極意なきのあるのも、その爲であらう。ところがチームワークとなると、連帶責任で、前者の個人的なるに反して、社會的である。一體我が國の生活は從來は個人的であり、階級であつたから、勝負事までもさうであつた。町人は勿論、足輕でも、通例は武士と試合は許されなかつた。集會、演説、俱樂部など、團集的の催しは、西洋から輸入されたもので、それと共に團集的、デモクラチツクの運動競技も輸入せられたのである。即ち生活が西洋化する程度に於て、スポーツも益々西洋風のもの盛になるのは當然である。歐洲大戰後に於て、この兩方の發展は目覺ましいものがある。

今日新聞は相撲の記事は載せるが、それは年二回の本場所の時位のも

ので、他は年中杳として消息を斷つて居る。劍道柔道に至つては、明日の催し欄に六號活字で一行出る事が稀にある位で、相撲よりも一層關心しない。新聞は人氣ものである。世間の人氣を無視した記事を多く載せれば自滅の外はない。それ故世間が興味を以て見る記事は載せない譯に行かぬ。従つて近來ベースボール、テニスの記事は、どの新聞も競つて載せ、大概毎日一段か一段半位は運動記事であり、中にはその記事の詳しいのを特色として居るものもある。(テニスの如き、選手の各セットの得點まで、東京から大阪から知らせて来る。又新聞社が主催して、又は後援して、小學より高等の學校の對校競技會や、オープンオープンの競技會を催し、これを毎年催しの株とし、なほ遣れるものなきやを氣遣つて、探り出すことに汲々たるの有様は、洵に努めたものである。新聞ばかりでなく、運動の雜誌、又は競技の一種目に限つた雜誌も數々あつて、盛んに

運動を鼓吹して居るのは結構なことである。つまり時代が變つて來たので、外來の運動競技に關する興味が、漸次擴まりつゝあるを證するものである。

最近數年來運動競技が盛んになつて來たのは、世界及び極東オリンピックに、我が國選手の參加、その彼我成績の比較に由る發奮、米國の野球チームの來襲、米國への試合旅行、我がテニス選手の世界的聲價、それに新聞雜誌等の聲援等種々あるが、就中昨春來遊せられた英國皇太子殿下のスポーツマンライクの御態度、我が競技界に四百メートル競走に對するプリンス、オヴ、ウエールズ、カップを許されたる異數の特典、秋には我が攝政宮殿下の十種競技に對するカップの御下賜は、我が國青年に非常なる感激と奮勵を與へ、昨年を劃して、運動競技界は躍進的進歩をなしたのである。又攝政宮殿下を始め、皇族方にスポーツの御趣味

を有せらるゝ御方があつて、自らはせられ、又競技を御覽になる等のことが、どれほどの獎勵になつたか分らぬ。實に斯の如きは前代未聞の事であつて、益々赤子敬慕の情を深からしめるものである。

斯る好惠なる事情と共に、運動競技に向て精進する我が國青年の意氣努力をも認めない譯には行かぬ。實際近來の伎倆の上進は驚くべきもので、各種の競技に於て、續々レコードを破り、殆んど底止する所を知らない。この勢ならば數年の中には、世界オリンピックに於ての優者たるものを出すことも、期して待つべしである。

第三節 運動競技と學校

運動競技の選手が、一つの學校又は團體を代表して出場するときは、その學校または團體に對して、強い責任を感じるもので、源氏方を代表

して、平家のかざした扇の的に立向つた那須の與一の如き、一種悲壯の感が湧くに違ひない。普通の観衆は唯面白いものとのみ見るか知らぬが、心ある者は選手の意氣心中に同情して、涙ぐましい思ひをすることがある。少くも眞の應援者の心持はさうである。勝つて泣き負けて泣く。ここに世間の利害關係を離れた、純な清い情景を出現して、その中に思ふさま浸ることが出来る。我利我利の世の中に在つて、しばらくでもかゝる生活を味ひ得ることは、洵に仕合せといつてよいだらう。

對校マッチや團體競争といふものは、その學校又は團體に對して、内部の者に愛國心に似た一種の意氣、感情を養ふものである。その學校又は團體の意識がはつきりとし、その仲間の一人であるとの念を強くし、全體を愛し、全體の爲に自己を捧げる精神を養ふものである。これは學校又は團體の繁榮の爲に有力なものである。今學校のみに就ていへば、

學生が對校マッチを行へば、學生の愛校心は強くなるのみならず、特に他校に勝つことが多ければ多きほど、學校の根力に於て、優秀なるものある事を示すものである。従つて民衆の同情を得、後援を要する事多き私立の學校に於ては、運動が盛んで、良き選手を養ふことを努め、その對校マッチが重要視せらるゝ所以である。それで學校によると、地方の中學生の鳳雛に眼を着け、卒業の上は、優遇の條件を以て自校に引き入れようとする。かゝる選手は學課の方は第二で、ゲームの練習に大方の力と時間を捧げ、半本職の如くなることがある。米國では大學の野球選手が、職業野球團に招聘せられて、本職となることは珍らしくない。この邊に於ける學校當局者の處置、その宜しきを得ないと、種々の弊害を生ずることがある。そこで米國の良い大學がやつて居るやうに、學科の成績の良くない者は、選手にせず、學科と競技と共に優秀なる者を、理

想の學生とすることにしたい。又新聞などが、運動の記事を掲げるにも、餘り煽動的にせず、選手に慢心を起させて、生涯をしくぢらせたりする事のないやうにしたいものである。選手は人氣者であるから、他からちやほやされ、遂に身を誤るやうなことがないとも限らぬから、餘程自重して、眞に紳士的に、スポーツマンライクにありたいものである。芝草の上に運動して居る英國の青年に於て、眞のギリシヤのオリンピックク、アスリートを見ると、オスボーンは言つて居るが、我國の青年こそはさうありたいものである。

第四節 運動競技と國家

運動競技が學生に愛校心を起させるのは、愛國心と關係あるものである。愛校心は學校といふ一小國を愛するやうなもので、それが擴張され

て國家となれば、こゝに愛國心を生ずるのである。英國人は好んでフットボール、クリケットの如き、團體的競技を行ふ。その一組が協同一致して、他の組に當る時は、仲間は利害關係を同じくし、連帶責任を以て互助的に働くのである。自己を全體に捧げ、衆と共に事を行ふのである。團體運動は我を忘れて全體の爲に戦ふのであるから、仲間の爲といふ念を強める。英國の成功は共同一致して競争者に當るにある。これが海外に於ても英國人が勝利を得る所以である。英國人も國內では互に競争し、利害の一致せぬために衝突することはあるが、一たび外國に對するときは、皆一致して共同の對手に當り、これを屈服せねば已まないといふ風がある。つまり英國人全體が一つのチームである。英國人は團集的利己主義 collective egoism の國であると謂はれるのもその爲である。

ところが我が國となるとどうであらう。海外植民地に在る者でも、知

らぬ日本人が行くと、すぐと隣人同胞の棚下しをやる。共に外國の商敵にでも當ることはしないで、共喰をして、彼れに漁夫の利を致さしめることがある。日本人は國家の危急といふやうな場合には、眞に舉國一致であるが、平時の仕事は、拔駈けの功名を争ひ、商工業にしても、政治にしても、小ぜり合をして一致しない。つまり平時に於ける國家的チーム、ワークが出来て居ないのである。運動競技の訓練は、國家の繁榮の上にも必要である。かういふ意味に於て、我が國に於てもベースボールや、フットボールの如き、團體的競技の普及する事を望む次第である。又英國人はフットボールをやるにしても、各その部署任務を守つて、他の領分を侵さない。人が蹴るべきものを、自分が出しやばつて拔駈けの功名をやるやうな事をしない。自己の義務は飽くまで行ふが、人の權利はどこまでも尊重する。かうなれば競技は最も活きた德育である。

ミュンスタールベルグに據れば、米國、特にその西部では、州や市が事業を爲すには、スポーツマンライクの方法とする。一つの州や市が、他の州や市と、フットボールをやる積りで、仕事に於て勝たうと努力し、そこにけちな嫉妬もなく、樂天的精神を以て企業する。例へばセント、ルイスが世界大博覽會を開催しようとすれば、ミソリー州がその首府の爲に熱心に贊助して、實行せしめ、他の州や市にその手際を見せるが如きこれである。それがまた州の産業の發展を促すこととなつたのである。政治でも商業でも、スポーツマンライクにやれば、廉恥を重んじ、卑劣を厭ひ、公明正大に行く筈である。即ち我が國でも、この方面にも、スポーツマン、スピリットが行れるやうにしたいものである。

又運動競技は、これを行ふ者も、観る者も、その興味は社會的差別に打勝つて、同等の仲間といふ感情を生ぜしめるものである。即ちブルジ

ヨアも、プロレタリアもない、皆樂天的な氣分で、平等一如の空氣に浸つて居ることが出来る。それ故我が國でも、階級の反目や隔意を和ぐる爲にも、運動競技の普及は望ましいことである。實際プレー、グラウン
ドに集れる人々ほど、同じ心地、同じ氣分に支配されることはないの
ある。

英國では前に述べたやうに、英本國と海外の領土との運動競技を毎年
行ふのを例とする。例へば印度、南アフリカ、オーストラリア、カナダ
等から、選手チームが英國に渡來して、本國のチームと、クリケットな
どを行ふ。これが本國と屬領との關係を圓滿ならしめ、その親和領會を
得しむるに與つて大に力あることである。互にスポーツマン的に振舞へ
ば、双方に好感を與へるものである。それで我が國でも、朝鮮、臺灣、
滿洲等のチームが出来て、内地に試合に來るし、内地からも出かけるや

うにしたい。それがどの位双方の感情を融和し、親密の度を増し、各方
面に好影響を與へるか分らない。既にベースボールやバスケット、ボー
ルなどには、滿洲や大連のチームが出来て居るが、その土着の人も加つ
て、各地からのチームが往來するやうにしたいものである。

又英國のオクスフォード、ケンブリッジと、米國のハーバード、エー
ルとの水陸の競技の如きは、國民の體育上有益であるのみならず、兩國
民の精神上的の融和に與へる利益が少くないので、有力なる國民外交の手
段である。我が國でも近來私立大學のベースボール、チームが渡來して、
彼の國の大學とゲームを行ひ、彼れからも來るといふのは、かういふ意
味に於て甚だ結構な事で、双方の選手も應援者も、將來國家の中堅たる
べき大學生であることが、一層その意義を大ならしめる。今日の外交は
外務省にのみ一任すべきでなく、國民外交が國交の基調となるのである

から、今後ともかゝる舉は外務當局も成るべく好意を以て便宜を圖るやうにしたい。近來外務省にも運動家が入るやうになつたのは喜ぶべき事である。かゝる青年外交家は、外國に赴いては、その國の運動場に入出し、彼の國人の間に立交つてスポーツをするがよいので、外交界の熊谷清水となる事が、どれだけその人望を博し、延いて國交に資することあるか分らない。獨り外交家のみならず、今後のビジネスマンは運動家でありたい。内地にあつても、外國にあつても、その利益は圖らざるものがある。今日會社なきでも、身體が丈夫で、在學中運動家であつた人を探る所があるのは、賢明な仕方である。ビジネスに従事して居ても、やはり運動はするが宜く、やらずが宜いので、ゲームに出たい時には、成るべく便宜を與へるやうにしたい。これからは、政治家も實業家も、**タイア**が一新しなければいけない。懇親會といへば、空氣の濁つた室内

で酒を呑み、大食することのみ心得て居るやうな事では、到底駄目である。酒太りの脂肪過多の實業家や、アルコール中毒のヨイヨイの政治家などが、テニスをやり、クリケットをやり、ベースボールをやり、フットボールをやり、馬に乗り、山に登り、水に泳ぎ、四疊半を千倍した運動場で、青空の下に、バットやラケットを振り、年を取つても腰が曲らず、ほけず、青年の元氣を持続する歐米の同業者を向ふに廻はして、各方面の競技が出来るであらうか。實際スポーツ以上の若返り法はない。見るだけでも、青年の潑刺たる元氣が移るやうである。運動競技は學生の事のみではない、國民全體の事であり、國家の事である。

第五節 運動競技と世界

米、又は英米の大學の對校競技の國交上に於ける意義は述べたが、

これが世界各國出會ひのゲームスとなると、世界の平和親交の上に貢献することが少くない。古代ギリシャのオリンピックク、ゲームスが、ギリシャの割據せる都市や州や、植民地の人民を、一所に會して、ギリシャ民族全體の、換言すれば、當時の世界の聯合平和に貢献した事は大なるものであつた。一八九六年來再興されたオリンピックク、ゲームスにも、その意味の含まれて居るのは云ふまでもない。近來交通機關の發達に伴ふ、各國有形無形の文化の交換は、各國民をして、同じ世界の住民といふ感情を濃厚ならしめた。今日は世界の一箇所に投ぜられた石は、その波紋を全體に及ぼして、さこの岸をも打つやうになつた。二十世紀に入つてから、萬國會議なるものが非常に多くなつて、各方面に於て、世界が相談を遂けることになつた。最近の歐洲大戰は、如字的に始めての世界戦であつて、各國民、各人種を一つの坩堝に入れて掻き交ぜた。その

結果獲たものの一つは、世界心 international mind である。今日の家族は家庭の城壁内に籠居することが許るされず、税も出され、種痘もされ、外への交渉奉仕がなくなつた。その代りには國家社會の惠澤に預ること多くなつた。國家もその通りで、もはや他國との交渉關係を斷つて、續國の夢を見て居る譯には行かない。一つの國に勞働爭議があれば、他の國の勞働者が應援したり抗議を申込んだりする。即ち一方國家としての存在は從來の如くであると同時に、他方益、人類が世界的に共同的に生活するやうになつて來たし、何の國にも世界の脉搏を感じるやうになつて來たのである。

再興されたオリンピックク、ゲームスが、世界心を喚起し、人類としてのフェロウ、フイーリングを養ふ上に、與つて力あるのはいふまでもない。他の萬國會合は、多少とも皆各國の利害關係の伴ふもので、自國に

不利と見れば、抗爭する事もあり、脱退する事もある。必ずしもその争や君子でない。その結果遂には干戈に相見えることもある。然るに運動競技は、すべての遊戯に於てさうであるやうに、disinterestedな、即ち損得利害の勘定の入つて居ないものである。従つて其萬國大會は君子的のものであつて、古代ギリシヤでもその催しがある間は、平和が保障されたやうに、眞に平和の氣象の漲るものである。現に今回の極東オリンピックに當つても、支那では我が國に對する政治上の問題から、延いて選手の派遣を中止せよと抗議した者もあつたが、それは問題が別だ、オリンピックは政治とは、何等の關係もないといふので、遂に派遣する事になつたやうなものである。今日世界各國民が同じフェロー、フイーリング、同じ氣分を以て、損得利害を超越して、和氣霽々の裡に會合するといふことは、恐らくオリンピック、ゲームスを外にしてはあるまい。かうい

ふ意味に於て、オリンピック、ゲームスが、世界の趨勢の先驅として、世界の協調、人類の平和、人道の實現に貢献することは少々でないと思ふのである。さうしてそれがまた、偏狭でない、健全な愛國心を養ひ、國民の氣風を高め、度量を廣め、國民體育の奨励となることは、固より見逃すべらざる賜物である。

極東オリンピックも、範圍は限られて居るが、世界のそれと同じ影響を東亞の國民に及ぼすものである。それが地を換へて、隔年催される事は洵に結構な事で、我が國と支那及び南洋との親善を、一層濃厚ならしめる楔機となるを得ば、大なる幸である。どうかこの意味に於て、今後も繼續したいものである。本年は大阪で催される事となつたが、我が國民の誠意、歓迎の眞心は、來賓國民にも好き印象を與へたに違ひないと思ふのである。

第六節 運動競技の現在及び將來

日本で、今日世界に引けを取らぬゲームはテニスであつて、今の勢で行けば將來デビス、カップの獲られぬ事もあるまい。これに次で見込のあるのは長距離競走であらう。日本では東京高師を發祥地として、マラソン、レースが榮える。極東オリンピックでも、長距離では勝利は皆日本のものであつた。これは身體の持續力を語るものである。日本人は長脚短脚で、餘り身體の比例は好くないが、割りに胸廓が大きい。これは國民のエネルギーのある事を示すもので、マラソンの榮えるのも偶然でなく、民族の將來ある前提として、洵に芽出度いことである。日本人も米國人同様、あまり負けることの好きな國民ではなく、土に嘯りついても勝ちたい方で、マラソンなども、一つは何くそといふ我慢があるから

である。福澤先生は嘗て瘦我慢の説を出されたが、日本人には瘦せても枯れても、意氣といふものがある。運動競技にはこの意氣が大切である。しかし唯意氣だけではいけない。身體の攝生に注意し、克己耐久の力を養ひ、合理的練習を十分に行ふことが必要である。又長くやつて居る中に會得する「コツ」といふものも大切である。嘗てロンドンで萬國素人陸上競技大會を見た時、ハードルで勝つた青年に就て、あの人は祖父の時代からハードルが上手だと、隣りの人が言つた事があるが、そこまで來なくては本物にならない。運動競技もトラヂショナルになるまでに行きたいものである。英米の古い大學では、代々同じ大學に入學する者がよくある。かうなると、學校も人も生え抜きになつて、本統のアスリートが出る譯である。我が國でも相撲、劍道、柔道は古來からあるので、極意秘傳もあること故、これを競技に應用すれば得る所少くあるまい。兎

に角最近一兩年に於ける我がアスレチック、スポーツの進境は驚くべきものがあり、レコード破りが相續いで起るのは喜ぶべき事である。この勢を失はず、益々健全なる發達を爲さんことを望むのである。

近頃女子の運動界もやゝ活氣を呈して來たことは、喜ばしいことである。この勢で女學校でも運動を奨勵し、又選手を出して輪贏を争ふ事もよい。女子の體育は今後尙大に奨勵普及する必要がある。女が弱くて強い男が生まれる筈がない。オリンピックの優勝は、その選手を生んだ母の優勝を示すことを忘れてはならぬ。この點からいへば、運動競技の成績を擧げるには、女子の體格から改善して行くことが、根本的である。但餘り他から煽動せず、神經質にせず、着實健全にこれを養護して、順當の發育を續けしめたいものである。

— 終 —

大正十二年五月廿五日印
大正十二年六月五日發



版權所有

運動競技と國民性
定價金壹圓八拾錢

著者 下田次郎

發行兼 東京市神田區通神保町六番地

印刷者 右文館

右代表者 橋本恒之

東京市神田區表猿樂町廿番地

印刷所 株式會社 右文館印刷所

發行所 株式會社 右文館
東京市神田區通神保町六番地
振替東京四七五〇番

文部省學校衛生官 醫學博士北豐吉先生著 大正十一年九月十日發行

體育運動概論

四六判・ソフト組二百頁
上等布裝美本函入全一冊
價金一圓五十錢送料金十五錢

從來高唱された體育運動は主として體育指導者或は競技愛好者の間に限られてゐた。それが大戰の結果心身改造の叫び體育革新の聲の世界的となるにつれ本邦の學校に社會に種々な體育的施設を見るに至り注目すべき二傾向が現はれた。其一は漫然體育を獎勵することなしに科學を基礎とし殊に醫學の研究に鑑みて之を合理的に獎勵普及せしめなければならぬこと、其二は前段の傾向に伴ひ體育運動の目的を達する爲には體育運動指導の專門家と醫學者とが親密に提携して行かねばならぬことである。本書は此二傾向に重きをおき體育運動の重要學理を簡明に且つ平易に説述したものである。體育家は勿論健全なる心身の所有者たらんと欲する人に本書の一讀を薦む。

- 第一章 體育及體育運動の意義
- 第二章 運動の效果と弊害
- 第三章 運動の身體各機關に及ぼす影響
- 第四章 努力作用及疲労
- 第五章 運動の適否判定
- 第六章 運動と年齢
- 第七章 身修體練の種類
- 第八章 運動實行上の注意
- 第九章 體育運動各論體操、遊戲、競技、教練、駢走、步行、遠足、登山、水泳、滑艇、自轉車乘、武術、練固法、深呼吸法、體育的施設、海濱樂、林間學校其他
- 第十章 體育的施設、海濱樂、林間學校其他

文學士江上秀雄先生新著 大正十一年十月五日發行

新刊 精神検査法講話

四六判・ソフト組四百七十頁
上等布裝美本函入全一冊
定價金三圓廿錢送料金十八錢

精神検査の研究は益、盛になり、近時此法は入學試験に、低能兒・遲滯兒・優秀兒等の發見に、教材及學科の適否判定に、學校調査に、將又雇傭試験に實施せられ、著々其實績を擧ぐるや愈、教育上の大問題として取扱はれて來たのである。本書は團體的精神検査の説に力を注ぎ、一讀直ちに應用實施の出来るやうに述べてある。殊に著者は文部省學校衛生課に職を奉じ、教授衛生の立場から調査の歩を入學試験の影響如何に進めらる關係上、本書又此方面に獻ぐる功績の甚だ大なるを疑はぬのである。

- 第一章 緒言
- 第二章 知能論
- 第三章 精神検査法の發達
- 第四章 精神検査法の用途——入學試験としての精神検査
- 第五章 精神検査法の問題
- 第六章 團體精神検査法
- 第七章 個人精神検査法
- 第八章 精神検査法實施例
- 第九章 測定材料の統計法
- 第十章 結語

文學士 江上秀雄先生新著

新刊 體育運動心理

大正十二年 二月二十五日發行

四六判ポイト組百八十頁
上等布裝函入全一册
價一圓六十錢送料十五錢

世界的勃興の氣運にある體育運動は現今我國教育上重視され、學校に社會に種々なる施設を見、教育倫理衛生各方面より盛に研究されてゐるが、體育運動の目的が既に強健なる身體を作り健全なる精神を養ふにある以上、精神的方面が如何に體育運動を支配し統率するかの考究も勿論緊要事である。本書は此のために出でたる本邦最初の著作である。

第一章 緒言
第二章 體育運動の意義
第三章 體育運動の分類
第四章 兒童心理の分類
第五章 兒童心理の観たる遊戯
第六章 體育運動の心理的効果
第七章 體育運動の心理的効果
第八章 體育運動の心理的効果

第十九章 運動の調節
第十八章 運動家と感覺器官
第十七章 運動とアドレナリン
第十六章 反應時間と精神機能
第十五章 體育運動と練習
第十四章 體育運動と疲勞
第十三章 體育運動と疲勞
第十二章 體育運動と疲勞
第十一章 體育運動と疲勞
第十章 體育運動と疲勞
第九章 體育運動と疲勞
第八章 體育運動と疲勞
第七章 體育運動と疲勞
第六章 體育運動と疲勞
第五章 體育運動と疲勞
第四章 體育運動と疲勞
第三章 體育運動と疲勞
第二章 體育運動と疲勞
第一章 體育運動と疲勞

276
321

終

